

平成24年10月長浜市教育委員会定例会 会議録

I. 開催事項

1. 開催日時

平成24年10月26日（金） 午後1時30分～午後3時20分

2. 開催場所

教育委員会室（長浜市内保町2490-1 長浜市役所浅井支所2階）

3. 出席委員

委員長 梅本伸子
委員 松嶋孝雄
委員 桐山恵行
委員 北川貢造（教育長）

4. 欠席委員

委員 前田敏一

5. 出席事務局職員

教育部長	中井正彦
理事	勝木俊次
教育指導課長	北居丈範
すこやか教育推進課長	福井清和
理事兼幼児課長	金森毅
教育センター所長	勝城弘志
教育センター参事	上野隆史
長浜城歴史博物館長	片山勝
文化財保護センター所長	森口訓男
長浜図書館長	藤森了堅
理事兼長浜学校給食センター所長	田中良和
生涯学習・文化スポーツ課長	中川順博
生涯学習・文化スポーツ担当課長	徳田清孝
教育総務課副参事	平塚崇之
教育総務課副参事	伊吹定浩
教育総務課	長谷川隆志

6. 傍聴者

1名

Ⅱ. 会議次第

1. 開 会

2. 議 事

日程第1 会議録署名委員指名

日程第2 会議録の承認

9月定例会

日程第3 議案審議

議案第39号 長浜市立学校の設置等に関する条例の一部改正について

日程第4 協議・報告事項

(1) 長浜市スポーツ推進計画の策定について

(2) 長浜市基礎学力調査の分析結果について

(3) 英語検定について

日程第5 その他

3. 閉 会

Ⅲ. 議事の概要

1. 開 会

委員長からあいさつの後、開会宣言があった。

2. 会議録署名委員指名

桐山恵行委員、北川貢造委員

3. 会議録の承認

9月定例会

特に指摘事項はなく、9月定例会会議録は承認された。

4. 議案審議

本日の会議に諮る予定の議案第39号につきましては、市議会の議決を経るべき議案審議となります。これについては、市議会で審議される前の情報であり、公にすることにより、市民等の間に混乱を生じさせる恐れがあることから、当議案については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条第6項の規定に基づき、非公開としたい旨の発議があり、出席委員全員一致で議決された。

5. 協議・報告事項

(1) 長浜市スポーツ推進計画の策定について(生涯学習・文化スポーツ課)

生涯学習・文化スポーツ課 担当課長が資料に基づき説明した。

(2) 長浜市基礎学力調査の分析結果について(教育センター)

教育センター所長が資料に基づき説明した。

主な質疑応答は次のとおり。

北川委員：市独自の基礎学力調査を始めたのは平成15年で丁度10年目になる。この調査は児童生徒の学習習熟度さらには生活の実態を見る基礎資料として重視をしている。補充学習対象者については60点以下を基本としているが、中学2年生は数学40点以下、中学3年生は数学30点以下となっている。何をもちて補充学習対象者とするか、なぜこの数字にしているのか、10年になるので検証が必要だと思う。中学3年生の30点を基本点の60点にした場合どういう数字になるのか、驚くべき数字が出てくるように思う。大変良い資料であるから分析したいと考える。今は、習熟度についてあるものさしを変えてみて分析する必要があるのではないだろうか。教育センターで新たなデータを出してもらえると、来年度からの基礎学力調査を現場で有効に活かしていけるのではないかと思う。

2点目は、小学校2年生で3割の子が2時間以上勉強している。これは本当なのか。どんな勉強をしているのか。小学2年生で塾に行っている子は少ないと思うが、学年が上がるごとに下がっていく。家庭学習を全くしていない子どもの割合も見る必要があるのではないか。中学校3年生で半分の子が2時間以上テレビを見たりテレビゲームをしていると書いてある。このままデータを信じて良いのか疑問に思う。

同じように家でほとんど読書をしない子どもの割合がある。小学校2年生の子で60%以上が読書をしているとあるが、本当にそうなのか、読書の中身はなんなのか率直に思う。そういう点についても分析ができるならしていただきたい、できないのならそれに合うような設問に変えていかなければならないと思う。

習熟度の低い子については個別にきっちりと認識し、その子の学習到達点、学習状況、家庭状況、授業中はどうなのか見ていく必要がある。そういうところまで入っていかざるを得ない。今は集団登下校になって居残りをさせて教えたくても教えることができない。習熟度の遅れている子どもたちには夏休みに特別授業を設定するなどしなければ、どこで教えてその子を伸ばして行くのか。補充学習対象者がいるという確認だけであってはいけない。教育委員会としては少人数学級を夏休みだけ特別に講師を募集して学校に来てもらう。このようなことを考えたりするのが教育委員会や行政の仕事だと思う。そうでないとこの子たちは救われない。文科省等々では「経済状況と学力は一定の関係がある」と言われている。

だとすれば塾へ行こうにも行けない子どもがほったらかしになると思う。教育委員会としてはそういう子に何をすべきか手を講じる必要がある。学校は非常に苦労してやっていると思う。制度的、システムとして教育委員会がすることは他にあるかもしれない。長浜南中学校で3年生の補充学習講座というのを設定している。報告を聞いたら70人の生徒が来たという。この数字は驚くべきもの。これは習熟度の低い子だけではないだろうけど、勉強したいと思っているのだと感じる。そのところが何となく今、学校教育が形骸化している部分があるのではないだろうか。きめ細やかな指導という言葉はよく使うが、教育委員会が補充学習対象者を視点においた学力向上についての事業をじっくりと考える必要がある。

市では思考力チャレンジ事業という取り組みをしているが、これは教育委員会がやることに意味があるのか合わせて検討したい。教育委員会が対応すべきは補充学習対象者ではないだろうか。端的に言えば習熟度の高い子どもたちに教育委員会がある事業をすることは教育委員会の事業として適切なのかと思う。委員会として、この調査を分析して本当に有効な策をやっていく必要がある。教育センターで過去のデータを分析し、また、学校からも報告をいただいて活かせるようにしていただきたいと思う。

桐山委員：小学校の中学年が指導のポイントと書かれていて全体的なこととして小学校3、4年が教育の肝と言いますか、一番大事な時期ではないのかと思う。ある書物によると10歳くらいの子どもたちの吸収度が一番大きく潜在力を高める一番のチャンスだというふうに書かれている。小学校4年くらいの担任にエース級と言われるような先生をつける方がいいのではないか。

教育センター所長：3、4年生の問題につきまして、そのあたりがキーポイントではないかということは、調査等々の結果、また、経験をしてきた者としても感じています。今の脳科学の方から分析しても、子どもたちの脳の発達の変化、具体的なものから抽象的なものが理解しやすく、視野が広がる年代であり、どのような教育を考えていけば良いのか研究室でデータを基に研究中であります。

松嶋委員：補充学習対象者が小学校4年の学習終了時で30%以上いるというのは確かに高い。安全・安心の関係で居残り学習がなく、ほぼ集団登下校になっている。理想としては補充学習を学校現場がやれば良いし、事情が許せばやりたいというのは、やぶさかではないと思うが、安全・安心がはたしてうまく確保できるのか。特に夏休みというのは教職員も派遣制度がなくなり出張や自己都合で年休を取る以外は皆出勤をしているので、どんな形でも指導はできると思うが、ただ大きな問題が学校現場にはあり、それが安全・安心の確保であり、交通事故や不審者等の対策である。さらにはお昼の給食という問題もあり、保護者の負担等を検討したり、安全・安心を完璧に確保できる状況が整わないと難しい。補充学習の取り組みは非常に良いことで、子どもたちに光を当てたいと学校現場も思っている。

北川委員：そのあたりの条件整備みたいなものは、なかなか難しい。

松嶋委員：その条件整備をするのが教育委員会の仕事だと思う。条件さえ整えば、学

校もそのような思いを持っている。

北川委員：学力を高めることについて、習熟度が低い子どもたちにポイントをおき、学校での指導をどうするのか。教育委員会は一つのポイントをここにおいてこの資料を分析し施策を進めていかねばならない。そういう意味で皆さんと共通認識できると大変ありがたい。

松嶋委員：事業改善等できめ細やかな授業をすと言っても、時間が確保されないと無理であり、そこが一番問題になると思う。非常災害やインフルエンザ等の対応として日数確保するために、少し早めに授業を始めるといようなことは実施されている。それ以上の時間を確保するのは非常に難しいことで学校サイドでできることではない。

北川委員：委員会の私も含め、委員相互が客観的に子どもたちの学習状況はどうなっているか共通認識することが大事。松嶋委員がおっしゃったように、子どもたちに教える十分な時間がないということもある。指導課にお願いしたいのが、戦後、小学校・中学校の授業時間はどのように変化してきているのか、データがあれば出していただくと検討する上では大変ありがたい。学力低下と言われているが、学校での授業はどうなっているのか。先生方の授業の工夫は限界にきている気がする。

委員長：家で2時間以上勉強する子の割合というのがあるが、全員聞いているわけではないが、宿題が多いから2時間以上かかってしまうと聞いた。宿題をしないといけないので出していただくのは全く構わないが、その宿題をしているのを見て親は勉強をしていると思ってしまう。それで机に向かっているのが2時間以上だからと勉強しているというように親は勘違いしてしまう。できないなら塾に行かせてわからせようという認識もある。子どもも先生方も努力は凄くわかるので、保護者の認識も話の中に入れていただければと思う。塾も勿論良いが、もっとこんなふうにしたら塾に頼らなくても良いとか色んな選択があるってことを教えていただくと、子どもに親が言えることもある。先生の言うことを聞く子、親の言うことを聞く子、反発するという子もたくさんいますので、そのあたりを少し考えていただけたらと思う。

教育センター所長：基礎学力調査の分析結果を基に指導課と連携しながら進めていきたいと思います。

北川委員：この調査の目的は、「児童生徒1人ひとりの学習習熟度を基礎的な問題の解決を通して診断すること」、「学習習熟度と普段の家庭での過ごし方等との関連を探ること」、「個に応じたきめ細やかな指導に生かし、指導方法および指導体制整備の資料とすること」であり、より有効に活用するためには、ここに重点を置いて教育委員会として、また校長、担任として何をすべきかを考え、施策を展開していかねばならない。

(3) 英語検定について（教育指導課）

教育指導課長が資料に基づき説明した。

主な質疑応答等は次のとおり。

桐山委員：長浜市の学校数・児童生徒数・授業時数はどうか。

教育指導課長：小学校28校、児童数約8,000人、授業時数は低学年35時間、中学年55時間、高学年70時間です。中学校は13校、生徒数約4,000人です。

桐山委員：この資料に出てきているデータを見ると最初はブロンズにしていたが、途中からシルバーに移行している例が多いと思う。他市との授業時数の比較においても、最初の年は良いが、どうもブロンズでは簡単ではないのか。その辺りは結果を見ながら変更していくということも必要なのではないか。

教育指導課長：小学校英語教育のプログラムを市教委が作成していますが、そのプログラムでやろうとしている内容がブロンズと合致しているので、このクラスを受検したいと考えています。

桐山委員：他市では検証重視でシルバーに変更している。低学年からずっとやっていることの意味づけみたいなのがブロンズでは測れないのではないか。

理事：もともと小学校での英語教育の目的として、英語に慣れ親しみ外国の方とも、臆せず話せることをめざして施策をしてきたと思っています。その点からいえば、なかなかALTと話もできなかった子どもたちが以前とは見比べるほど中学に入ってきた時に話しかけようとしている姿があり、非常にその成果は大きいと評価をもらっています。

外国の方と出会っても笑顔で会話しようとする姿そのものが小学校英語で習ってきたものだと思っていますし、それに近いのがブロンズで確かめられる内容だと聞いています。本来の趣旨から考えればブロンズでずっと測っていくのが、目的に合った検証の仕方ではないかと思っています。

桐山委員：そのようなことだけで予算をとれるのか。外国人とおくせずに話せるという見た感じだけで正当化されるのは違うと考えるが。

理事：客観的なデータを取る方法も加えていこうと考えています。

松嶋委員：特区を受けた時のそもそもの意図は何であったか。

教育指導課長：市内に外国人が増える中で国際交流「おもてなしの心」（ホスピタリティ）、英語になれ親しむことを目的とし英語教育として特区を申請しました。

北川委員：基本は理事が言われたところを押さえながら、そのことを達成するための手段である語学力がどうかということも今、長浜でやっている経過点であり一番合致しているのがブロンズだという判定をした。その結果を見ながら次はシルバーかどうか語学力も重要であるので、今後きっちりと検証して進めていく必要があると思う。

松嶋委員：子ども1人あたりどのくらい予算を投入しているか、他市と比較することも大事なことだと思う。日本語で毎日やっている授業で学力補充対象者がこんなにたくさんいるということも非常に大きな課題だと思うが。

北川委員：英語の特区に関わる ALT の費用が約 2 億円。正確な計算ではないが小中学生約 12,000 人として 1 人あたり約 15,000 円。財政が非常に厳しいということで圧縮を求められているうえに、緊急雇用対策事業が来年度からなくなってしまう。しかし、どの事業もなくすることはできないので、事務事業の見直しを行うなどトータルの考えていかねばならない。

6. その他

- (1) 陸上記録会の結果報告について
すこやか教育推進課長が資料に基づき説明した。
- (2) 特別展「湖北の観音」入館者数について
長浜城歴史博物館長が資料に基づき説明した。
- (3) 園訪問の実施について
幼児課長が資料に基づき説明した。

7. 閉 会

委員長から、本日の委員会会議が全て終了した旨の発言があり、閉会の宣言があった。